

JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について 地域住民対象説明会 議事録（要約）	
開催日時	平成25年10月22日（火曜） 9：00～11：30
場 所	谷津コミュニティセンター
出席者	市瀬学校教育部参事、島本学校教育部主幹

島本主幹 （JR津田沼駅南口開発の進展に伴う児童増加対応について、資料に基づいて説明）

【質疑応答】

質問者 同じ意見は何度も聞いているかと思うが、まず私はその721世帯のマンションに住んでいて、まず購入のときの決め手というのが、谷津小学校それから第一中学校に通えるというのが一番の決め手になったということは、知っておいていただきたいということ。

あと質問で、今後建設の予定されている869世帯だったか、そのマンションとモリシアの前の仲よし幼稚園跡地マンションの学区域というのは、谷津小学校ということで説明をしているのか、それともまだ何もしてない状況なのか。これから入居というか販売の予定のところなので、そもそも谷津小学校には行けませんよという説明ができるのかどうかをお伺いしたい。

回答者 今ほどの1点目については、私ども重々承知している中で、今回案に加えさせていただいているということは、現状の中で皆さんにお示しをするという1つの考え方の中で、当然にして谷津小学校を学区として入居されているということも承知しているので、その辺については御理解いただければと思う。

2点目の今後の開発、869戸のマンション及び仲よし幼稚園跡地の750世帯、こちらについては、既にディベロッパーさんに関しては、現状谷津小学校ということは言い切れない状況で、現在通学区域を変更、こういったものも視野に検討しているというようなお話はさせていただいている。ただ、決定をしていないので、通える、通えないということまではまだお話ししていない、現状の中で通学区域の変更を視野に検討をしているというようなお話はさせていただいているという状況である。

質問者 5、6年生を分離するというお話の中で、管弦楽クラブに何か影響があるというお話でしたが、管弦楽のクラブは何年生からか。

回答者 谷津小学校の管弦楽クラブは4年生から。4年生、5年生、6年生でクラブ活動をしている。ですので、5、6年生の分離となった場合に、どちらの校舎で集まってやるのか。あるいはパート練習をやるのか。あるいは指導者はどうするのかというようなこと、それに加えて、クラブに入部を希望する児童さんの数も多くなるだろうという対応について、考えなければならないというようなことである。

質問者 奏の杜のところって、もともと畑だったので、人が住んでなかったわけで、なので現在の谷津小の通学区域はすごく広いのかなと思う。その場所に人が住むようになったので、人数が増えるのは当然のことだと思い、計算が甘過ぎたのではないのかなと思う。パークタウンも、多分当時すごく人数が増えたと思うが、そのことの反省というか、なかったのか。あと、今後建設予定のマンションの凍結もあり得るのじゃないかなと思う。小学校の増築や、新設という費用を考えれば、新たなものは凍結して、現在の子たちが小学校卒業したぐらいになってから、販売というか、そういううまく計画をずらすことはできないのか。

回答者 1点目の推計が甘過ぎるというところについては、私どもとして非常に重く受けとめている。今回の開発の想定といったところの中では、少子高齢化や社会情勢の変化もあったところの中で、私どもが推計をその段階で修正するというような対応、こういったものも恐らくできたのではないかというように考えている。ただし、そういった対応ができなかったというところが、繰り返しになるけれども、主要因であるという、これは皆さん方には大変御不満の点になろうかと思うけれども、現状においては、これらについてをどのように前へ進めるか考えていく中では、子どもたちにとってよりよい学校教育を最重要にとらまえた中で考えなければならないと考えている。

それと2点目のマンションあるいは今後の開発を凍結というような御意見について、まず今回の南口の開発については、各地権者さんのほうで組合の設立をし、県の認可を得て、そして市としても都市計画決定をしてというような形で進められている。現在、区画整理事業における基盤の整備、こういったものが進められているという中で、基盤整備が終わると、その土地利用については、各地権者さんの意向によって進められていく。そこをどの

ように土地活用していくかというような展開があるので、そちらについて市のほうからどうこうということについては、申し上げられない。

皆様方に不安と困惑というようなことを与えているか、ただ、新しく住まれる方、こういった方にも住んでよかったというような形で、どのようにしたら捉えられるか、御批判もあるだろうけれども、今回の増加対応というものをクリアしていきたいというようなところで考えている。

質問者 第3案の第一中学校併設小学校建設ということだけれども、これは中学校の敷地などをちょっと存じ上げないけれども、可能な敷地があるのか。あとまたグラウンドの問題などがあるということだったが、もうちょっと詳細を伺えるか。

回答者 第3案というのが、ここのエリアを1つの学区とした場合に、第一中学校の敷地の中に学校建設するという案。この建設の場所というのは、高学年分離の場合も同じである。現在、第一中学校の配置はグラウンドがあり、校舎棟があって、体育館があって、プールがあってテニスコートがあるというような並びになっている。そのプールとテニスコートの位置であれば25学級規模の校舎は可能な範囲というところで考えている。そうした時に、ではグラウンドが狭くなっていいのか、あるいはプールとテニスコートはどうするのかというようなことも含めて考えなければならない。ただ、仮に建てるとしたらそういったところという想定である。

また、小学校高学年分離も併設という場合も、小学校のグラウンドには遊具が必要になるので、そういったものを第一中学校のグラウンドのどの位置に、どの程度というようなことも考えなければならない。

質問者 高学年の校舎を建てるとする場合も、テニスコート、プールをつぶして建てるという予定なのか。

回答者 仮に建てるとしても場所を特定しているということではない。ただ、仮定の中では、プールとテニスコートあるいはグラウンドでしか、おそらく対応はできないということと、別に、駐車場の辺をどうにか活用できないかということも検討の中にはある。

プールがなくていいのかと言うと、教育課程上、水泳という部分も必須の部分があるし、テニスコートについても、今回、第一中学校は新人戦の中で非常に頑張ったということの中で、そういったものを考えたときにどういった手当てをしていくのかということも含めて考えなければならないという

のが現状である。

質問者 谷津小学校が老朽化ということで、いずれ建てかえるという話だが、それをもっと早く前倒しができないかということと、あと思い切って学校をかえないで、高層ビルというか、高層にすれば受け入れ可能ではないかと思うが、将来的に無駄なスペースというか余裕教室ができてしまうということについては、人口が増えるということは、それだけ子どもが増えると同時に高齢者もいずれ増えると思うので、そういう人たちのコミュニティーの場として生かしていけば、無駄なスペースではないと思う。

また、5、6年生を分離するという点について、うち今1年生のお兄ちゃんがいるのだが、やはり4月に入って給食があったときに、最初に5、6年生のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちがお手伝いしてくれたとか、あと清掃のときも、いまだに5、6年生のお兄ちゃん、お姉ちゃんがお手伝いに来てくれたとか、そういう話を聞くと、やはりそういう模範になる人、お兄ちゃん、お姉ちゃんとかいたほうが、全校生徒のそれぞれの学年の交流としていいんじゃないかなと思うので、やはり5、6年の分離というのちょっと考え直してほしい。

回答者 1点目の谷津小学校の老朽化について、現在、市のほうでも学校施設を含む公共施設の再生という計画策定の動きの中で、谷津小学校についても築50年を越えて、老朽化が著しいということから、まだ確定はしていないけれども、1期計画が平成26年から31年度、2期計画が32年度から37年度、そして38年度以降というような3期区分で、谷津小学校は第2期の32年度からの前半というような位置づけになっている。ただし、今回の児童増対応の中では、第2期という部分については前倒しも考慮するというようなことが付記され、説明がされている。

そういった中で、今回、建替えと併せて校舎を高層化し、学区を変えない56学級という対応のお話は、そういった考え方、こういった部分も、非常に貴重な意見ということで受けとめさせていただく。それと、56学級の場合も、校長先生というのは1人ということになる。

今、副校長制というのができて、仮に2人としても、やっぱり管理監督は校長さんが1人というところの中では、実際に管理監督できるのかという御意見も学校のPTAさんの中からはいただいたりしているので、その辺も含めて、どうクリアするかということも考えさせていただく。

あとは、分離に対応する考え方。新1年生になったときの5、6年生が教える、一緒にやるという、それはもう本当に対応として非常に分離という部

分に懸念があるということなんだと思う。私どももその辺は大きく懸念はしているが、その中でも、例えば4年生が最上級生という意識が芽生えたり、5、6年生が中学生に進学した際の慣れであるとかという展開も、一方ではあるかもしれない。ただし、義務教育といったところは、今は1年生から6年生、そして中学1年生から3年生という中で成り立っているのだから、そういったところを懸念しないということではなくて、この分離に対応する検討を加えたいというように考えている。

質問者 今、1年生に2人と5年生に谷津小へ通わせている。5、6年分離というのはちょっと反対で、やっぱり今1年生に通っている子が、ちょうど6年生になったときに分離対象にあたるのではないかと思うが、この前も親子清掃で学校のほうに掃除に行ってきたけど、やはり、6年生、5年生、4年生、3年生、この4人でトイレを掃除していた。やはり6年生の子が下の子を教え、下の子はわからないことは6年生に聞き、そういう場面も見られるし、やはりうちの子5年生だったので、下が入学してからは、上の子が下の子を連れて、家から谷津小に通っていたりもしていたし、やっぱり5、6年になったときに、1年生って小さくてかわいいな、ちょっと手助けしてあげようかなと、そういう気持ちも芽生えるころかなと思う。そういうときにやっぱり5、6年生がいない。4年生も自分よりかははるかに大きいけど、明らかに5、6年生とやっぱり違うと思う、高学年は。だから5、6年分離はどうしてもしてほしいなというのが、自分の意見。

あと、5、6年分離の場合、中学校の敷地内に入るという説明だけど、中学生の心理的には、例えば自分たちが授業中に、外で体育をやってちょっと騒いでいたり、あと小学生の子がちょろちょろ運動場を走っていたり、校舎内を走っていたりするような場合はどうなのかなと、聞いてみたい気もする。受験を控えた3年生なんて、やはり高校受験を控えていて大変な時期なのに、やはり小学生がいてもいいものなのかどうなのか。中学生の子たちにも聞いてみたいなという気はする。やっぱりプールとかテニスコートをつぶすのも反対というか、なくてはいけないのではないかという気もする。

質問者 5、6年分離をしないと考える中の1つに、高層マンションこれから建つ2つに関しては、袖西小にという案も出ていたように思う。その部分というのは、JR津田沼から出る路線バスが近いということが1つ挙げられるのかなと思ったけれども、やはり私としてのお願いでは、路線バスを使うという考え方ではなく、スクールバスをつくった上でそうしてもらおうと、全体に新たな5、6年生分離の建物も建たないし、一時的なものであればどうしても

らって、谷津小をまた新たに建替えてもらう。それを早急に考えてもらいたいなと思う。

質問者 6丁目に住んでいる者である。孫が谷津小に通っている。今まで、いろいろな説明会があって、当初の予測が外れていたとさっき反省しているとおっしゃったけれども、もし本当に反省しているのであれば、ここにたくさん案が出ているけれども、どの案ももう無理、これは。どなたにも納得する案ではない。

では、反省しているのであれば、今後どうしたらいいかということだが、先ほど出た谷津小を高層化する案。あと、どう考えても新しい学校を建てなければ、この問題は解決しない。緑地公園の跡地が、用地があるのだから、ここに新しい小学校を建てる、そういう案もあるけれども、それが余り表に出てこない。先ほど3階までしか谷津小を建てられないとのことだったが、子どもはものすごく増える。それ以上高くしないと、小学校の数は受けられないと思うが、先ほど、法律変えるかもしれないと、何か曖昧なことを言っていたけれども、その辺がちょっとあやふやだということ。

それとあと緑地公園の跡地に小学校を建てたいと、そういう要望がすごく多いにも関わらず、それは法的にできないと、そればかりである。では谷津小を高層にするか、緑地公園に新しい小学校を建てるか、どっちかぐらいしか案がないと思うけれども、どちらが可能か。

回答者 2.2ヘクタールの近隣公園を変えるのはほとんど無理である。できるとすれば、谷津小の用途を変えて、6階建てぐらいの校舎を建てて、そうするとグラウンドも若干今よりも広くなる。ただし、そのグラウンドでは足りないので、やり方としては近隣公園に広場が7,000㎡ぐらいできるので、そこをグラウンドとしては使えないが、広場として借りて、グラウンドの代替地として使用するというのを、検討している。

ただし、いろんなハードルを越えなくてはいけないので、必ずやれると言えない状況。

質問者 今のことに関して、「今検討している。」「これから考える。」「これから皆さんで相談して決める。」と、こういうことを言っているけど、本当にそういう動きになっているのか。本当はもう決まっているのではないのか。

回答者 まだ決まってはいない。この案の中から幾つか、もっとよくするためとか、あと学区を変えた場合は、一番の問題が通学路の安全面があるので、それも

どうするかということ、今各部と協議しているので、1カ月後にまた示せるように、今やっているのを御理解いただきたい。

質問者 だとしたら、こういう理由でできないという理由を探す作業ばかりではなくて、住民のために、今後の生活のために、ちゃんと考えてやっていただきたい。

質問者 あそこの緑地のところは、国のものなのか。

回答者 2.2ヘクタールの緑地については、都市計画決定がされている。もともと、地権者の方が250人ぐらいいて、その方たちが組合をつくって進めている作業である。それに当たり、市としては、3つの道路を整備することと、それから防災公園ということで、公園を2.2ヘクタールつくることと、これをもって都市計画決定している。

それで、この2.2ヘクタールの土地については、1ヘクタールは、もともと習志野市が上のほうに持っていた土地があり、それを換地ということで、1ヘクタールを動かして、あと1.2ヘクタールは地権者の方が、自分たちの土地を、例えば200平米ある方は、160平米でいいよと、40平米はこの区画整理事業のために使っていいよと、例えば公園にしたりとか、それからこの事業をやるに当たって費用が必要なので、土地を売って資金にするお金の一部に充てたりとか、そういう形でやっている。

要は、ここ2.2ヘクタールを公園にするというのは、1.2ヘクタールはもともと組合の方の土地であるので、その方たちとここを公園にするという形で、習志野市が譲り受けていると、そういうことである。

質問者 では、それを地権者の人たちに、今こういう学校の状態がこういうことから、少々歩み寄っていただけないかとか、そういう話もできるのか。例えば、谷津小学校が高層になった場合に、そこをグラウンドとして使う。普段は防災公園なので空いている。地権者の人たちに、こういう状況だからというお話で借り受けるとか、そういうことはできないのか。

回答者 都市計画決定がされていることと併せて、何%という緑化率が決まっている。この地域では、例えば3%とか決まっておき、3%を確保しなければ、今、国の補助金等をもたらしているが、それを満たさないことになってしまう。皆さんから、谷津小の敷地と交換すればいいではないかという話も出たが、谷津小の敷地面積 1.3ヘクタールでは緑化率が上回らない。今の2.2ヘク

タールでようやく緑化率を保っているような状態なので、法律に違反するという事になってしまい、どうしても2.2ヘクタールを使えないというような状況である。

質問者 6丁目に住んでいる。上の子が小学校1年生、下の子が2歳とゼロ歳なので、2歳の子は谷津幼稚園に入りたいのだが、今のままだと移転の初年度に当たる。

前も思ったが、まず何でこの場に市長が来ないのか。この話、全部市長さん聞いているのか。この日曜日運動会だとかにはいらしてたそうで、それも大切だけど、この場に、市民の意見をまず肌で感じてほしいので、市長さんぜひ来るように伝えてほしい。

あと、今日で一応説明会は終了なのか。

回答者 この7案についての説明会は終了である。

質問者 学区の件とちょっと外れてしまうかもしれないが、今、この御説明をお聞きして、谷津小学校また向山小学校の老朽化、耐震化があり、これからなされるというようなことで、生徒さんたちが増えるに当たって、安全性をすごく私は心配になった。建替えをするに当たっても、津田沼小学校さんの例でも結構だが、敷地で既存の小学校の前につくったのだったか…。

回答者 既存のグラウンドに建設した。

質問者 それで、古い校舎を壊してということだよ。今後それで増加をしていく段階で、そういうことが起こり得るわけだよ、谷津小学校。そういったときに、グラウンドも、もしかしたらなくなるかもしれない。そういったことはグラウンドの確保とかを含めて、先ほどおっしゃった代替地の広場、緑地公園とかをお借りするような感じでお考えなのか。

回答者 津田沼小については、津田沼小はグラウンドに校舎をまず建設をして、その間、既存の学校運営は、今までの円形校舎の中では子どもたちが学校運営をしながら、グラウンド側には校舎を建てていくという工事をしている。そのため、一時期、校舎棟が全面を埋めるというようなところで、その脇を仮設グラウンドという形で対応した。

そして、新しい校舎がグラウンド面にできて引っ越しを済ませて、その上で円形校舎を解体して、今、現状そのグラウンドの整備に取りかかっている。

そのグラウンド整備も一気にできないので、仮設グラウンド整備をして、そのエリアをグラウンドとして、それ以外のところを工事しているというような段階を踏むという工程を踏んでいる。

では、谷津小はどのようにするかといったときに、これらについてもどのようにというところは考える必要があるけれども、現状の中では、代替となるところがないので、津田沼と同様に今のグラウンド面に一部校舎を建て、一気に建ち上がるかどうかというところはあるけれども、その上で引っ越しを済ませて、校舎棟のあるほうがグラウンドという、そういう展開になるだろうと考えられる。

あわせて、その際のグラウンドという部分をどうするかというのは、冒頭お話ししたように、やろうとすれば近隣公園が整備後に、例えば多目的広場というところがあれば、そこを一定期間、あるいは時間的な借り方というところの中で対応するということが、現段階では想定される。

質問者 であれば、古い校舎はそのまま耐震をして、その期間だけ使って、増えている期間だけという時限措置みたいなのは、それでその後に壊すというようなことであれば、だめなのか。

回答者 そういった意味でいくと、谷津小学校は既に耐震補強工事を終えているので、そういった意味で地震の際の対応は保たれている。耐震補強と老朽化対策というのはまた別であり、耐震補強というのは、地震の揺れに対して倒壊しないための策であって、例えばこういうコンクリートの中には鉄筋が入っていたり、その部分のさびが進行しているとか、そういう具合があるとその中で劣化が著しくなると弱くなるというようなこともある。耐震補強という面でいけば、谷津小学校は耐震補強済み、第一中学校は今体育館をやっていて、来年度校舎をやる。向山小学校も体育館を今年度やっていて、来年度校舎をやる。耐震補強については、私どもとしては来年度全小中学校は完了するというような計画で進めているという状況がある。現在、谷津小学校の施設というのは、老朽化という部分で言えば、日々いろいろ破損ということが起きている状況にはある。ただ、耐震補強は済んでいるというところで、今のお話は、だから既存校舎も使って、グラウンド面に校舎を建てて、グラウンドとして近隣公園をとというお話なので、今の敷地を全部校舎でというイメージか。

質問者 増えているその時期…。

回答者 その辺についても、それが学校運営にもたらす影響とかそういったことも考えなければならぬので、1つの意見として受け止めさせていただく。

質問者 学区変更の案に少し戻ってしまうけれども、学区変更のいろいろな案を出して、どうにか学級数の平準化とか空き教室とかの活用ということで考えられていると思うが、それは児童がどんどん増えて、最大になったときに何とか対応しようという案だと思うが、それがもしも減って、将来的にはまた減っていくと思うので、それが減ったときにもし学区をかなりいびつな形とかに変更する案もたくさんあるので、それをまた解除するのかとか、そういった将来的に、一番大変な時を何とか乗り切ろうという案がたくさんあると思うけれども、それが終わった後にまち全体として、何かちょっと将来的に子どもがまた大きくなって、学区の形もおかしいとか、コミュニティーの形成にも関係すると思うので、これは一時的な案でいつまでのものとか、そういったことも含めて今後検討していただきたいと思います。

回答者 当然にして子どもさんが減って、今、向山小は少ないという状況の中で、それぞれ特色を持った教育という部分をしているというところであるけれども、それがこの先を考えたときに、そのままがいいのかというところは、教育上課題があるというような中で、その後のこのエリアでの子どもの推移を見た中では、やはり公共施設再生という部分で、改めてそういう時期にはまた段階を踏んだ形で、全市的な考え方の中で、通学区域の変更に取り組んでいく必要があるというようには捉えている。

質問者 5丁目に住んでいて、上の子が年中さんの保育所に行っていて、下の子がゼロ歳で、まさにこの問題にかかわってくるのだが、まずお聞きしたいのは、市の中でどのレベルの話までいって、きちんと他部署との連動がとれているのか。例えば幼稚園、保育所だとか、こども部だと思うけれども、そこと連動がとれているのか。先日、幼稚園、保育所の改編の説明会に行ったけれども、谷津、向山あたりにこども園を整備したいという話だったが、そのときも小学校の話等は、谷津幼稚園がなくなるとかそういった話は全然なかったし、将来的に谷津幼稚園が戻ってくるというか、また再開するのかとか、その辺もどうなっているのかなと思う。

あとは、難しいということだったけれども、私の希望としては、近隣公園のところ新しい小学校なり分校なりと、あとこの地区、保育所が非常に不足しているので、こども園と一緒に整備して、そうすれば幼稚園の方も保育所が入れなくて困っている人も助かると思うし、将来的には何か地域のコミ

ユニティーみたいな、そういったものとして活用できるようなものをつくったらいいのではないかなと思うが、その辺はいかがか。

回答者 この問題をどのレベルというか、庁内的なという部分については、基本的に今年に入って、市の企画政策、財政、総務、あるいは都市整備部、こども部、こういったところとこの問題に向き合ったというような形がある。

それで、現状においては、谷津幼稚園の関係もあるので、こども部とは連携をした中で、対応するというような形はとらせてもらっている。

今のお話の中の、幼保の再編の説明の際にということの中では、恐らく幼保の再編の説明ということに特化して、多分説明者は説明をしたので、谷津地域には、いわゆる園、学区にはこども園を1つというような中でのお話で、ただその対応については、児童増の問題があるので、どこにどうということまでは具体的な話は多分なかったのかなと思う。そういう中で、その段階、そちらのほうの説明では、幼保の再編ということも園の2期計画のお話に終了したのだろうなということだと思う。

谷津幼稚園、こちらは今、こども部で見ているのは、今回の児童増加の影響の捉え方として、谷津幼稚園を含む園区というのが、谷津幼稚園と津田沼幼稚園と向山幼稚園と藤崎幼稚園、これが1つの園区になっている。ただ、藤崎幼稚園は、距離的な面から、そこは視野には入れない中で、この3つ、津田沼、向山、谷津、この園の中であれば幼稚園児の需要については、対応ができるだろうと。ただし、保育所については不足が生じるだろうというような見込みである。

そのため、今回の対応に当たって、谷津幼稚園は今のところまだ確定もしていないので、一時移転というような表現をさせていただいている。少なからず谷津幼稚園の6保育室、こちらは確保しなければ、幼稚園の園児の需要には対応できない状況というところで、谷津幼稚園一時移転という中では、向山小学校や向山幼稚園、谷津幼稚園の今のイメージは3つの看板を向山エリアにというイメージ。

その幼稚園が2つあるというところの運営方法、こちらについては、現状の中での話は、一時移転ということで2つ看板を持つわけだが、運営方法については、統合して運営したほうがいいのか。あるいはそのままがいいのか。この辺については、この問題の推移の中で、詳細を設計していくというような捉え方で、現状の中では一時移転という考え方で、一時移転とすれば、緩やかに子どもさんが減少した際には、また戻るという展開。ただし、その段階では、谷津小学校の老朽化ということもあるので、今お話の中で、こども園というお話もあったので、その辺については、今回の児童増対応を含め

た谷津小の老朽化対策を前倒すという中では、非常に貴重な意見だと思うので、こちらについても持ち帰って、検討を加えさせていただくと。要するに用途変更して、大きくつくって、それをその段階が幼稚園なのかこども園なのかというのはあるけども、将来はこども園に転用できるであるとか、あるいは街にコミュニティーという施設が必要になろうということから、コミュニティーへの転用であるとか、そういったものは設計の中で転用に向く設計ということも、現在市の取り組みの中では行っているので、そういったことで対応させていただくということを考えさせていただく。

質問者 市全体で取り組んでいただいて、市長のトップダウンで、強い意思をもって、現場だけでやると対応案1とか7とかそういうのしか出てこないと思うけれども、トップダウンで強い意思をもってやってほしいというふうに思う。

質問者 今のことに関して確認だが、谷津幼稚園が向山に移転ということになると、今の段階では、例えばうちは6丁目だけれども、片道五、六十分、1時間近くかけて行く、帰る、またお迎えに行く、帰る。これを毎日やらなければならない。今、そういうことになってしまうけれども、それはもう仕方がないと、そういうお考えなのか。それとも、バスを出していただくとか、そういうことを考えてくださっているのか。

回答者 6丁目から向山に歩いてというところ、抱っこして歩くとか、ベビーカーを押しながら歩くとか、そういったことのお話の中では、とても通える距離ではないという御指摘をさまざまいただいている。そういう中では、通園バスというようなお話もいただいている。そういったものをトータル的にどのように対応していくかということを考え、次回、説明の中で、もし仮に谷津幼稚園を移転するという方向性とした場合のお話では、その辺もクリアできるようにお話しできればというように考えている。

質問者 現在、谷津幼稚園年少に通っている親だが、谷津幼稚園が向山幼稚園のほうに移転をするということになると、1丁目、7丁目、1丁目側から向山に向かう道が狭くて、ガードレールもない状態になる。そこで安全面をどう考えているのか。

また、谷津幼稚園、年長さんになると、谷津小学校の5年生のお姉さん、お兄さんとの交流を持つようになる。それは谷津小に入って、縦割り学級のお世話の問題ではあるが、それもあって、今、谷津幼稚園に通わせている。

谷津小学校に入ってからよりよく過ごすために谷津幼稚園に行かせているが、そういう縦割りの問題であるとか、この辺はどのようにお考えになっているのか。

現在、学区編成のときに、就学中のお子さんと新入学をされるお子さんを持っている世帯もあると思うが、その際、下のお子さんはどちらの小学校に行くことになるのか。

回答者 1点目の安全対策、向山へ向かう踏切を越える道の歩道にガードレールもなく、車が抜け道的に走るところの安全対策、こちらについては、幼稚園のお迎え、登園に限らず、通学区域を変更した場合もそういった事象の中、どのように対応できるかというようなことは考えなければならない。ただ、そこに、じゃあ人が立てばいいのかどうか、こういったところも立つだけでいいのかどうかということもあると思うので、その辺どのような整備ができるかということ、今関係課と協議している。

ただ、踏切の横断については、なかなか改善という部分については、恐らく難しいと。例えば上に歩道を通すとか、そういうことは難しいだろうというところの中で、歩道を歩くところの改善という部分では、どのように対応できるかということは、考えさせていただくということで、現在のこの説明会の中ではさせていただいているところである。

それと、幼稚園児と小学生児の縦割りということの中で、仮に一時移転をしたときに、谷津小学校の子どもたちとの園児の交流という部分について、その辺についても向山小学校の子どもたちの交流と、谷津小学校の子どもたちの交流という部分も、どのように設定できるのかということはあるけれども、今も併設をしていない園児などは、近隣の学校の子どもたちとの交流というのはさせてもらっている。ただそこに、じゃあ移動を伴うのかという問題が発生すると思うので、今後そういう方向でいくとすれば、考えなければならないだろうというところで捉えているということで、今回はちょっと御回答にならないけれども、御了承いただければと思う。

また、仮に通学区域が変更になった場合、この際に変更区域にいる子どもさんが転校をするかということに対しては、卒業までいていただくという配慮をしなければならない事項の1つであるということをお答えさせてもらっている。

同様に、現に通学区域が変わる際に、就学しているお子様の下のお子様か新1年生になるという兄弟関係、これらについても教育上あるいは災害時であるとかという部分も含めて、配慮しなければならない事項だろうというようには考えている。

ただ、近所の子どもさんとの友人関係のところは、なかなかクリアするということは難しいのではないかとということでお答えさせていただいている。

質問者 兄弟枠がありということだと、余り学区編成をしても、結局、谷津小の人数は余り変わらないのではないかと。やっぱり友人関係の部分で、1回谷津小に入った、その小学校に入ったら、ずっと卒業まではその小学校に行くということだと、同じ町内の中で、私はその小学校に行きたかったのに、何でうちは上がいないから違う学校に行かなきゃいけないのという問題がやっぱり出てくると思うので、やはりその辺も考えていただきたい。

質問者 今までの平成16年までのと平成23年との見通しが甘かったのだろう。先ほど重く受けとめているとは言われたが、結局、これも何かしら弊害だとか問題が出てくると思うが、そういうところ、もうちょっと厳しい目で、将来を見据えてほしいなと思う。

質問者 小学校じゃなくて幼稚園の話になってしまって申しわけないが、小学生の人数が56学級最大で増えるとなると、当然、その前の段階の幼稚園児、保育園児も増えると思います。その子たちの行き先、幼稚園なり保育園なりの確保の話は出ているのか。今、小学校の話しかしてないと思う。未就園児の数とかの推計はとっているのか。

回答者 その辺については、こども部のほうでとっている。先ほどもお話ししたように、幼稚園児について、現在、谷津幼稚園には6保育室ある。向山にも6から8保育室がある。津田沼にも保育室があるという中で、今回の増加するという部分については、賄えるだろうというように見ている。

保育所については、一定程度不足が生じるというようなところで、どう取り組むかということは、今、検討している中で民間の誘致であるとか、そういったお話も出ている。この取り組みの中で、幼稚園需要については、現段階は対応ができるだろうと考えている。保育需要については不足が生じるであろうというところで、具体的な数字についてはちょっと持ち合わせてないのでお答えできない。

質問者 ちゃんと検討して、もうそれはクリアしているという結論でいいか。

回答者 クリアしているかということ、保育の需要についてクリアしているかというのは、改めて確認をしないといけないが、クリアしているかどうかと言うと、

クリアはしていこうとしている段階である。

質問者 小学校のほうばかりに目を向けて、そっちがおろそかになるのもどうかと思うので。

回答者 この問題については、幼稚園、保育所そして小学校、中学校というところで、総じて同じ事象の中で捉えた検討を進めている。

質問者 本日の説明会も含めて、今までの質問とか意見については、きちんと全て文書化して、教育委員会のトップだとか市長の方に御報告、どのような形でされているのかお聞きしたい。

もう1つは、次回の説明会が非常に重要になると思っている。その意味では、今回の説明会は周知期間も短いですし、開催期間も少なく、土日も1回しかなかった。運動会があって参加できない方もいたし、未就学児の、小さいお子さんを持っている方には、保育園に預けて共働きをされている方も非常に多いと思う。次回の説明会の開催方法について、例えば周知を広報に載せるとか、先ほどお話もあつたけれども、市長や教育委員会のトップの方に同席していただくとか、開催をこのぐらい長く考えているとか、今のところ御検討されていることがあれば、教えていただければと思う。

回答者 今回の説明会、学校の保護者を含めて、これらの議事録については、順次作成をしておるところで、整い次第、ホームページにも掲出していくというように形に対応している。ホームページのほうも充実をさせていこうというふうに考えている。

ただ、順次作成しているものなので、学校の保護者、そして地域と複数あるので、そういったところで本日の分がいつの段階でということはお答えできないけれども、順次作成次第掲出していく。

それと、次回の説明会という中では、今回の意見を集約する、そういう中でどのような対応ということも検討する、そういった形でまた資料もつくるといったところを進めている。それとあわせて、次回の説明会を11月の中旬以降といったときに、またどんどん日数ばかり過ぎていってしまうということがあるので、その辺については調整をして、広報という部分についても含めて、対応できる部分については対応させていただこうというふうに考えている。

質問者 市長さんに説明会に来てほしいとずっと要望しており、前回のときも、市

長に伝えるとお答えになったと思うが、どんな反応だったのか。伝えるだけで無視されたのか。

回答者 市長には伝えている。市長も、試行錯誤をなさっているという状況である。

質問者 周知の際は、保育所にもお願いしたい。今、谷津南に行っているけれども、全然周知がなくて、育休中の人もあるし、土日であれば参加できるし、非常に関心があるのでお願いしたい。

～閉会～